ウポポ〈唄〉にカムイ〈神〉が降りてきた！

kapiw（カピウ）とapappo（アパッポ）

～アイヌの姉妹の物語～

【ドキュメンタリー映画】

佐藤隆之 監督作品

出演：床 絵美　郷右近富貴子

海沼武史　下倉洋之　郷右近好古　床 みどり　弟子シギ子　秋辺日出男

監督&撮影&編集：佐藤隆之　音楽：メカ・エルビス（サイバーニュウニュウ）　VFX&応援撮影：塩谷 茂／W.Lonnie Ding-Everson　整音&MA：村山竜二

企画：office+studio T.P.S　製作：office+studio T.P.S／OLIO FILMS　配給：オリオフィルムズ　宣伝：細谷隆広

［2016年／DV／112分／ステレオ／ビスタサイズ］

文化庁
文化芸術振興費補助金
助成作品

仙台初上映！　「kapiwとapappo～アイヌの姉妹の物語～」

対談　佐藤隆之監督と下館和巳

日付　場所　：2017年11月26日（日）　仙台弁護士会館4F　大ホール

主催　シェイクスピア・カンパニー

上映1回目　13：00～（112分）　上映2回目　16：00～（112分）

対談　15：00～（30分）　対談　18：00～（30分）

生きること。歌うこと。

北海道阿寒湖
アイヌコタン生まれの姉妹が
ライブデビューするまでを描く
“心にしみるドキュメント”

カモメはどこへ向かうのか…
風に逆らい 風に遊び
吹き戻されながら——

姉・絵美【kapiw（アイヌ語でカモメ）】

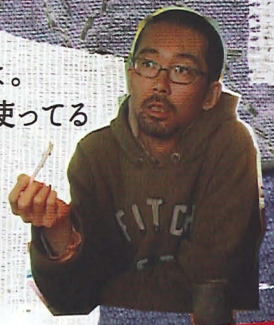
東京高尾で暮らす絵美は3人の子どもを育てながら、アイヌ関連のイベントで歌やムックリ（アイヌ民族の口琴）を披露する日々を送る。地元の音楽家・カイヌマとのユニット【riwkakant】のCD発表から5年経ち、最近では音楽活動の先が見えなくなっていた。

妹・富貴子【apappo（アイヌ語で福寿草）】

一方、阿寒湖アイヌコタン（集落）で暮らす富貴子は観光地の暮らしに追われ、日々披露する歌や演奏・踊りはいつしか【生活の手段】となっていた。コタンに根を下ろし伝統を受け継ぐことに誇りをもつ富貴子だが、姉の活躍ぶりが眩しくもあった。

花はなにを夢見るのか…
雪に押しつぶされ
土の中で凍てつきながら——

歌ってる瞬間にしか
アイヌ民族っていないんだよ。
だって日常生活にアイヌ語使ってる
わけじゃないでしょ？



アイヌヘイト!?

——プロデューサー・カイヌマの
ヘイトまがいの発言は何故…？

あんたと歌うとき、あたしは仕事は関係ない！

2011年3月11日東日本大震災、福島原発の事故が起こり、子どもの避難を巡って揺れる絵美の家族。姉一家を気遣う富貴子。絵美は子どもを連れて阿寒湖に避難のための里帰りをすることになる。コタンでの再会を喜ぶ姉妹だが、そこではふたりのデュオライブの企画が立ちあがっていた…。

Kapiw & Apappo（カピウ&アパッポ）

2011年に床 絵美（トコ エミ）、郷右近富貴子（ゴウウコン フキコ）の姉妹によって結成されたアイヌ伝統歌のユニット。ウポポ（アイヌの唄）、ムックリ（竹製の口琴）、トンコリ（樺太アイヌ由来の弦楽器）なども演奏する。ふたりが生まれ育ち受け継いだ阿寒湖／釧路地方の唄を中心に、伝統に根ざした“いま現在の唄”を歌う。ふたりの対照的なキャラクターと姉妹ならではの息の合った掛け合い（ウコウク）が持ち味で、その歌声には定評がある。近年、絵美は現代音楽家やコンテンポラリーダンサーとの共演、富貴子はサハ共和国をはじめとする海外での交流など、それぞれにソロとしても活動する。

【ドキュメンタリー映画】
kapiw（カピウ）とapappo（アパッポ）
～アイヌの姉妹の物語～

文化庁文化芸術振興費補助金 助成作品
www.kapiapamovie.com
www.facebook.com/kapiw2apappo/

阿寒湖コタン

北海道・道東のほぼ中央、マリモで有名な観光地・阿寒湖温泉の中核をなす商店街。周囲には民家が密集し約100人のアイヌ民族が暮らす。白老や平取など多くのアイヌが暮らす土地は他にもあるが、阿寒湖コタンは【世界一アイヌ人口密度の高いところ】と云える。一本の坂道からなる民芸品店街にはアイヌの伝統的家屋が再現され、アーチの上からは巨大なコタンコロカムイ（シマフクロウ）が町を見下ろしている。

11月26日（日）
仙台弁護士会館　4F　大ホール
鑑賞券　一般・学生　500円
劇団ホームページにて鑑賞券発売中
お問合せ/シェイクスピア・カンパニー事務局●Tel 090-5840-1103
●E-mail shakespearecompanyjapan@gmail.com

会場
仙台弁護士会館
4F　大ホール

劇団ホームページQRコード
https://www.shakespeare-company.net/